

道徳だより

テーマ： 道徳研究会の各部会紹介

どう
Do 徳 ?
どう 説く ?
どう
道 talk



令和 7 年 8 月
京都市立道徳教育研究会
広 報 部
(第 3 号)

育成 部会

部会のテーマ

部 長 宮田 勝行（鳳徳小）

「障がいのある子どもたちのニーズに合った道徳教育のあり方」

今年度の研究大会の会場校である修学院小の育成学級児童に、どのような授業が効果的かを修学院小の育成学級担任を中心に話し合いました。その結果、児童たちに自己肯定感を付け、お互いを尊重し合える仲間づくりをしていきたいとなりました。授業者を担当していただく白井隆先生（花背小中）が「いいところみつけ」の授業を提案してくださり、11月には、修学院小の育成学級児童のいいところをクイズにしていける授業を計画しています。そのために、1学期中に児童のいいところを出し合い、クイズの元を集めていきます。いいところみつけをしておいて、それをクイズにするという2段階の授業に部会のメンバーで挑戦していきます。

部会のテーマ

部 長 島崎 紀理（百々小）

一人一人が自分の思いを表出できる授業づくり

～子どもの心に響く授業づくりに向かって、だれもが自由に交流し合える部会を目指して～

低学年の発達段階として思いはそれぞれにあるけれど語彙力が少なく、言語化することが難しい子ども見られます。低学年部会では子どもたちが「自分の思いを授業の中で表出できるように」というテーマで研究を進めます。思いを表出するというのは、発表だけでなく意思表示、役割演技や交流の仕方などを部会のメンバーで考えています。今年度は2年生の「くりのみ」という教材の研究を中心に授業づくりを進めてきました。今年度はスキルアップデーが設けられ、研究会の会員でない方も積極的に参加されるようになり、道徳科の授業についてもっと知りたいという方が一緒に授業につい

ての工夫や悩み・アイデアなどを出し合い、交流・研鑽することができました。子どもたちの道徳の時間が好き、楽しいと思える授業にできるようにこれからもみなさんとたくさん交流をして授業力を高め合える部会にしていきたいと思います。一緒に学んでいきましょう。

低学年 部会

本研究会は、育成部会、低学年部会、中学年部会、高学年部会の4つに分かれて活動しています。教具や指導技術の交流、お悩み相談や授業・指導案検討など、明日の授業につながる取組が充実しています。総合教育センターで集まることが多いですが、オンラインで参加する先生方もたくさんいらっしゃいます。興味がおありの方はぜひ一度ご参加ください。

部会のテーマ

部 長 下村 望（常磐野小）

問題解決的な学習で創る考え議論する道徳

問題解決的な学習とは、道徳的な問題を多面的・多角的に考え、児童一人一人が生きる上で出会うであろう様々な問題や課題に対して、主体的に取り組む学習のことです。「問題解決」と称して「主題やねらいの設定が不十分な単なる生活体験の話合い」に終始し、話し合いを盛り上げるために、「対立点」ばかりの議論だけではなく、道徳的な問題を児童が主体的に考えることができるように補助発問やゆさぶりの発問の工夫を考えていきます。また、「道徳的価値」を学ぶことから離れた、「その場をうまく切り抜けるにはどうしたらよいか？」という、いわゆる「处世術」を学ぶようなことにならないように、子どもたちが「道徳的価値」に向き合い、互いに意見や考えを交流し、学び合えるような工夫も考えていきます。中学年部会では、テーマに沿ってよりよい授業を構築できればと思います。たくさんの方と意見交流ができればと思いますので、次回の参加もお待ちしております

中学年部会

部会のテーマ

部 長 大平 龍之介（御室小）

今年度は、より主体性な姿と協働的な姿の2つをキーワードとして授業づくりを進めています。まず、より主体的な姿では、教材の中で子どもが考えたい、話したいという子どもの問いから発問をつなげていくことが高学年部会の大きなテーマでもあります。協働的な姿では、これからの社会で生きていく中、様々な他者と関わり合い、多様な考えの中で過ごしていくことから、道徳科の授業の中でも、多面的、多角的な考えに触れ、自分の考えを深めたり、広げたり、確立させるために他者との交流の場を意図的に設定し、協働的に学習の問いや課題に対して、児童が話し合ったり、解決したりする姿を目指していきます。この2つの姿を充実させることで、道徳的価値の理解につなげ、自分の生き方をより深める（納得解につなげる）ことができると思っています。また、自己を見つめる（過去の自分、今の自分、今後の自分）振り返りの時間を大切にし、メタ認知の力も育む必要があると考えています。

第4回の高学年部会は研究大会の事前授業になります。5年生部会と6年生部会に分かれて授業をします。参加してもらえれば、必ず学びがある会になるはずなので、皆さん一緒に学びましょう。

高学年部会

【編集 河田 理江（開晴小中）】